

小さな自然再生から河川環境を学ぶ

—河川管理者を対象とした研修支援の取組—

水循環・まちづくり・防災グループ

リバフロサポートセンター（「小さな自然再生」担当）

主任研究員 和田 彰

発表の内容

1. 発表の背景

流域治水自分事化検討会 河川整備あり方検討会

2. 小さな自然再生とは？

定義と特徴 普及の取組 役割

3. 国職員対象研修会 in 京都府宮津市・大手川

開催経緯 研修プログラム 振り返り

4. 県職員対象研修会 in 秋田県大仙市・斉内川

開催経緯 研修プログラム 経過観察

5. 発表のまとめとお知らせ

発表のまとめ

はじめての魚の居場所づくり vol.2 「小さな自然再生」現地研修会

1. 発表の背景

■ 提言「水災害を自分事化し、流域治水に取り組む主体を増やす 総力戦の流域治水をめざして」(2023年8月)



図: 流域治水の推進イメージ(きっかけは様々)

(出典) 「水災害を自分事化し、流域治水に取り組む主体を増やす総力戦の流域治水をめざして」流域治水の自分事化検討会 P22

1. 発表の背景

■ 提言「水災害を自分事化し、流域治水に取り組む主体を増やす 総力戦の流域治水をめざして」(2023年8月)

4. 施策を進めていく上での着眼点と具体策

(4) 主体的な取り組みが進むための環境整備

1) 取り組みを実行する仕組みづくり

- 流域治水の推進にあたっては、**洪水から人命と財産を守る狭義の流域「治水」と、まちづくりと農業のように地域における資源の「利用」、それと自然とのつながりや生態系等の「環境」**を含めて取り組みを進める必要がある。
- 流域治水により多くの関係者に参画してもらうためには、**治水の観点からだけでなく、多様な側面から流域治水にアプローチする多様な取り組みを進める必要**があり、その具体的な事例や知恵を共有することが、流域治水の取り組みの幅を広げていくことにつながる。

1. 発表の背景

■ 提言「生物の生息・生育・繁殖の場としてもふさわしい河川整備及び流域全体としての生態系ネットワークのあり方」(2024年5月)

今後の河川整備等のあり方

河川における取組	流域における取組
(1) 河川環境の目標 治水対策と同様に、河川環境についても目標を明確にして、関係者が共通認識の下で取組を展開 <ul style="list-style-type: none"> 「生物の生息・生育・繁殖の場」を河川環境の定量的な目標として設定 河川整備計画へ河川環境の定量的な目標を位置づけ、長期的・広域的な変化も含めて評価 河川や地域の特性を踏まえた目標の設定 など 	(1) 流域連携・生態系ネットワーク 流域治水の推進を通じた、流域が連携して取り組む機運の高まりを、流域の環境保全・整備にも展開 <ul style="list-style-type: none"> 流域治水の取組とあわせ、グリーンインフラの取組を展開 生態系ネットワーク協議会の取組の情報発信・共有 関係機関と連携した環境データの一元化や共同研究の促進 など
(2) 生物の生息・生育・繁殖の場を保全・再生・創出 蓄積された知見や社会経済情勢等の変化を踏まえ、全ての河川を対象に、多自然川づくりを一層推進 <ul style="list-style-type: none"> 調査、モニタリング等を通じ順応的に管理 災害復旧や施設更新を、ネイチャーポジティブを実現する機会と捉え、環境も改善 など 	(2) 流域のあらゆる関係者が参画したくなる仕組みづくり ネイチャーポジティブの動きや民間企業の環境意識の高まりを踏まえた仕組みづくりを推進 <ul style="list-style-type: none"> 民間企業等による流域における環境活動の認証、官民協働に向けた支援や仕組みの充実 利用しやすい環境関連データの整備と情報発信 など

(出典) 提言「生物の生息・生育・繁殖の場としてもふさわしい河川整備及び流域全体としての生態系ネットワークのあり方」概要

1. 発表の背景

■ 提言「生物の生息・生育・繁殖の場としてもふさわしい河川整備及び流域全体としての生態系ネットワークのあり方」(2024年5月)

4. 今後の河川整備等のあり方

4-1 河川における取組み

(1) 河川環境の目標

- 「生物の生息・生育・繁殖の場」の目標設定に当たっては、当該河川（又は区間）で保全すべき生物種やその生活史とつなげる形で検討する必要がある。また、洪水や濁水を含めた**流量及び流砂の変動などの河川の作用を踏まえて、変動しつつも持続的に維持されるよう検討**すべきである。

4-2 流域における取組み

(1) 流域連携・生態系ネットワーク

- 流域全体で環境を考えるためには、**河川管理者自身が生態系ネットワークの理念を深く理解し、河川工学だけでなく生態系などの関連する分野の技術的素養を身につけるとともに、その分野に精通した人材を幅広く育成するための人材交流の推進、研修体制の充実を図るべき**である。

1. 発表の背景

「流域治水自分事化検討会」提言

- 流域治水に取り組む主体を増やすには、治水の観点からだけでなく、**利用や環境からのアプローチ**が流域治水の取り組みの幅を広げていく。

「河川整備あり方検討会」提言

- 流量及び流砂の変動などの**河川的作用を踏まえて、変動しつつも持続的に維持されるよう検討**することが必要。
- 河川管理者自身が、河川工学だけでなく生態系などの関連する分野の技術的素養を身につけ、そうした**人材育成のための研修体制の充実を図る**べき。



👉 流域治水の推進を通じて環境保全・整備へ展開する手段の一つとして「**小さな自然再生**」に着目。**両提言の具現化に向けて、「小さな自然再生」が貢献できるのではないか？**

👉 「小さな自然再生」を活用した河川管理者向けの研修支援の取組みから、**流域治水や河川環境の人材育成の可能性**を探る。

発表の内容

1. 発表の背景

流域治水自分事化検討会

河川整備あり方検討会

2. 小さな自然再生とは？

定義と特徴

普及の取組

役割

3. 国職員対象研修会 in 京都府宮津市・大手川

開催経緯

研修プログラム

振り返り

4. 県職員対象研修会 in 秋田県大仙市・斉内川

開催経緯

研修プログラム

経過観察

5. 発表のまとめとお知らせ

発表のまとめ

はじめての魚の居場所づくり vol.2

「小さな自然再生」現地研修会

2. 小さな自然再生とは? ～定義と特徴～

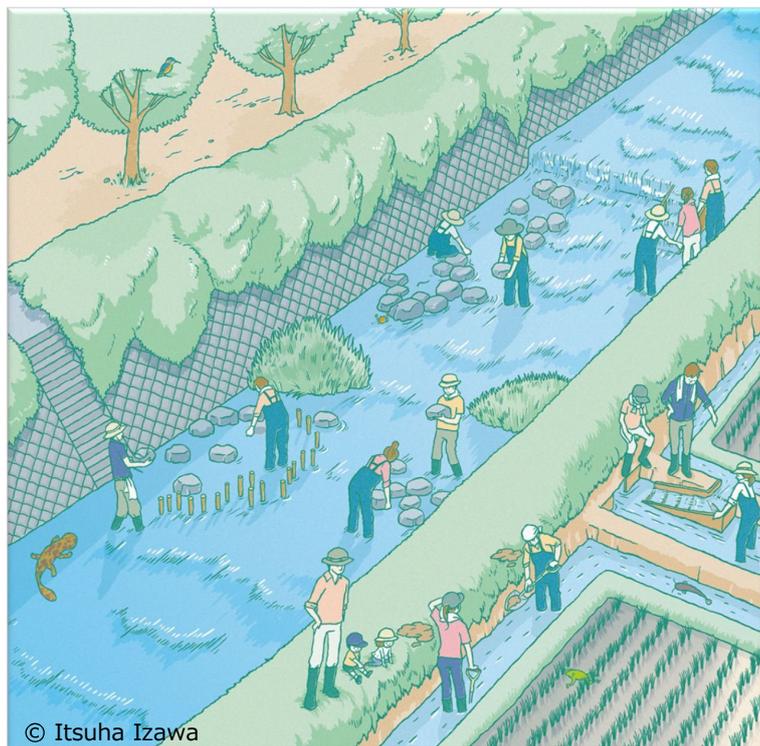
～みんなで発案・協働する手づくりの自然再生～

■ 定義

次の3条件を満たす取組みを「小さな自然再生」と定義。

- ① 自己調達できる資金規模
- ② 多様な主体による参画と協働が可能
- ③ 修復と撤去が容易

(2014年:「小さな自然再生」事例集編集委員会)



© Itsuha Izawa

2. 小さな自然再生とは? ～定義と特徴～



2021年10月 釧路川支流での魚道づくり@北海道釧路市



2023年1月 霞ヶ浦での魚道づくり@茨城県土浦市

2. 小さな自然再生とは? ~定義と特徴~



2018年7月 久知川でのホタルの餌場づくり@新潟県佐渡市



2023年9月 吉井川流域日笠川での魚の棲み家づくり@岡山県和気町

2. 小さな自然再生とは? ~定義と特徴~

■ 特徴 水辺の“小さな自然再生”の分類（対象と工法）

対象（再生の目的）		場所	工法
生物（例）	物理環境		
サクラマス/サケ/ アメマス/ピワマ ス/イワナ/アユ/ オイカワ/カジカ/ イシガメ/サシヨウ ウオ/テナガエビ	連続性回復 (上下流の縦 断方向)	落差工 取水堰等	簡易魚道 突出し魚道（根固ブロック、自然石、土嚢）/斜路魚道（木製設置、可搬式）/階段式魚道（木製、鋼製）/下流部堰上げによる落差軽減（堰板式等）/小わざ魚道（粗石+コンクリート）/竹蛇籠魚道/単管パイプ魚道/ その他（上記の組み合わせ型）
		既設魚道	魚道改良 練石積み隔壁魚道/角材と土嚢埋め込み魚道（底生魚用）
ドジョウ/フナ/ア ユ	連結性回復 (水路・水田等 の横断方向)	合流点 接合部等	簡易魚道 コンクリートブロックの階段式魚道/可搬式斜路魚道/単管パイプ魚道
ウナギ/タナゴ/ 魚類全般/ホタル/ ゲンゴロウ/カ ワニナ/チヌジノ リ/底生生物	生息・生育・ 繁殖場造成 (瀬淵、空隙、 ワンド、たまり、 水際等の造 成)	水際	水際工 植生ロール、ポット苗/捨て石・寄せ石
		比較的単調な河道 内や合流点等	2-way工 中州造成/側流（副流路）造成
			蛇行・瀬淵工 バープ工（土嚢、玉石、割栗石、コンクリート等）/間伐材水制
			ハピタット工 捨て石/石組み/石積み/石倉/浮石 川底耕起・攪乱・掘削 （手作業、小型重機）
サケ/アユ/シロ ウオ	産卵場造成	瀬(本川,分流等)	川底耕起・攪乱 （手作業、小型重機）/河床耕転+土砂撤去+砂利投入/バープ工
魚類全般	避難場造成	水際 合流点等	根固めブロック/石倉

2. 小さな自然再生とは? ~普及の取組~



2. 小さな自然再生とは? ~普及の取組~

「小さな自然再生」現地研修会

開催位置図 (2015~2023 年度)



2. 小さな自然再生とは? ～役割～

～みんなで発案・協働する手づくりの自然再生～

■ 役割

□ 地域づくり :

多様な主体の参加により新たな交流が生まれ地域が活性化

□ 環境・生涯教育 :

水の恵みと恐れ（防災）を実感できる体験の場、故郷への愛着醸成

□ 公共事業の補完 :

事業が動き出すまでのつなぎ & 多自然川づくりのきめ細かいフォローアップ

□ 河川技術の向上 :

川の営みを身近なスケールで学ぶ訓練の場、失敗が許される見試しの機会

発表の内容

1. 発表の背景

流域治水自分事化検討会 河川整備あり方検討会

2. 小さな自然再生とは?

定義と特徴 普及の取組 役割

3. 国職員対象研修会 in 京都府宮津市・大手川

開催経緯 研修プログラム 振り返り

4. 県職員対象研修会 in 秋田県大仙市・斉内川

開催経緯 研修プログラム 経過観察

5. 発表のまとめとお知らせ

発表のまとめ

はじめての魚の居場所づくり vol.2 「小さな自然再生」現地研修会

3. 国職員対象研修会 in 京都府宮津市・大手川

■ 開催経緯 (近畿地方整備局福知山河川国道事務所／2023年度)

<背景>

- 国土強靱化に向けた取り組みの一環として**河道掘削事業**を進めている。
- 河道掘削においては、洪水を安全に流下させることはもちろんのこと、**豊かな河川環境として湿地環境等の創出**が求められる。
- この創出された湿地環境を地域住民の自然体験や憩いの場としていくためには、**地域住民と事務所職員の協働による持続的な保全活動が期待される。**

<目標>

- 地域との協働による湿地環境の保全に向けて、自然環境や地域住民に対する配慮や工夫ができる事務所職員の育成を目指す。

<アプローチ>

- 座学により湿地環境保全や地域連携の基礎知識を学ぶとともに、**京都府宮津市を流れる大手川において小さな自然再生を活用したフィールド演習に参加し、湿地環境保全に取り組む先進事例から地域との協働のノウハウを習得した。**

3. 国職員対象研修会 in 京都府宮津市・大手川

■ 大手川の概要

- 京都府北部の宮津市の中心を流れる**二級河川**
- 流域面積： 28 km²
- 流路延長： 10 km
- 計画流量： 270m³/s
- 2004年10月の台風23号による浸水被害を受けて実施された激特事業により、現在の河道や親水公園が整備。



出典) 京都府ホームページ「大手川の位置」

3. 国職員対象研修会 in 京都府宮津市・大手川

■ 研修プログラム

(1) 座学研修 2024年1月

小さな自然再生を活用した地域との協働の考え方や事例、湿地環境保全に必要な知識を座学と意見交換で学ぶ。

<プログラム>

- 14:00-14:10 あやべ由良川水生園紹介（福知山河川国道事務所）
- 14:20-15:20 小さな自然再生による地域連携（滋賀県立大学：瀧教授）
- 15:20-15:40 湿地環境の保全について（リバーフロント研究所）
- 15:50-16:30 大手川での取組み（大手川サポーターズ・クラブ 他）
- 16:30-17:00 意見交換会（地域との協働をテーマに）



3. 国職員対象研修会 in 京都府宮津市・大手川

■ 研修プログラム

(2) 実践研修 in 大手川 2024年2月

大手川の福田親水公園にて、現地活動主体（大手川サポーターズ・クラブ／宮津天橋高校フィールド探究部）、河川管理者（京都府）、専門家と協働で小さな自然再生を活用した湿地環境保全を実践し、技術や関わり方のノウハウを習得した。

<プログラム>

- 14:00-14:30 現地集合、現地踏査、機材等準備
- 14:30-17:00 小さな自然再生の実践（ワンド導水路整備）
（16:00～宮津天橋高等学校フィールド探究部合流）



3. 国職員対象研修会 in 京都府宮津市・大手川

■ 実践研修の振り返り ～研修に参加した職員の声～

- ✓ 湿地保全における手づくりで行える技術について、**短時間で成功体験を楽しく学べるよかったです研修プログラム**感じた。
- ✓ 成功体験という意味でとても参考になった。その中でも知識と経験を有する**専門家と一緒に取り組むことの重要性**も感じた。成功体験を得るためには知識を持った人の参加が不可欠。
- ✓ これまで河川の現場に行くと仕事という感覚で行っていた。その中で大学生や高校生が笑顔で和気あいあいと楽しく参加していた。開始直後はどうしても仕事というつもりだったが、その内に**仕事の枠を超えて、自分らが学生に戻ったような、子供に戻ったような感覚で楽しんでいんだなという感覚になった。こうした感覚なり変化こそが地域連携ではないか。**
- ✓ **現地の方々と一緒に活動し、現場の課題を共有し、地元を守っていくという、そういう考えなり気持ちになったら、継続的に取組んでいけるのではないかと実感**することができた。
- ✓ 初対面で、あれだけ自然に融け合う、自然な感じで作業を終えることができ、**何か感覚が変わった気がする**。僅か3時間の現場での実践研修だが、色々体験し、感覚が変わった。
- ✓ 高校生をはじめとして幅広い関係者の中で、**直接に川の現場で手づくりで環境を再生する経験を短期間で得られるという体験は、非常に貴重なこと**と感じた。高校生があのように携わる現場と一緒にいることですごい感覚が変わるし、**地域と連携した活動へとリードしていくきっかけになるのではないかと、すごい可能性**を感じた。

👉 本研修会の概要は RIVERFRONT vol.99 (2024年8月発行) でもご覧頂けます。

発表の内容

1. 発表の背景

流域治水自分事化検討会 河川整備あり方検討会

2. 小さな自然再生とは?

定義と特徴 普及の取組 役割

3. 国職員対象研修会 in 京都府宮津市・大手川

開催経緯 研修プログラム 振り返り

4. 県職員対象研修会 in 秋田県大仙市・斉内川

開催経緯 研修プログラム 経過観察

5. 発表のまとめとお知らせ

発表のまとめ

はじめての魚の居場所づくり vol.2 「小さな自然再生」現地研修会

4. 県職員対象研修会 in 秋田県大仙市 斉内川

■ 開催経緯 (秋田県建設部河川砂防課／2017年度～2020年度)

<背景>

- 災害復旧工事で瀬淵や生物が失われる事例が県内で多く発生しているが、**施工時の工夫で河川環境を保全できないものか？**
- 河川事業に携わる県職員の河川環境に対する意識と技術を高め、**県内河川の環境改善を率先する県職員を増やしていきたい。**
- 県職員自らが施工を体験しながら**川の営みを肌感覚で学び、頭と体で川づくりを習得するような現場研修会を開催できないか？**

<目標>

- 治水事業や災害復旧に際し、瀬淵の形成など河川環境に対する配慮と工夫(相応しい技術の選択)ができる県職員を育成する。
- コンサルタントより示された成果を鵜呑みにせず、おかしな成果に違和感を覚え、正しく評価できるセンスを県職員が身につける。

<アプローチ>

- 多自然川づくりで求められる順応的管理を、**秋田県大仙市を流れる斉内川において小さな自然再生を活用したアクティブ・ラーニング型研修で習得した。**

4. 県職員対象研修会 in 秋田県大仙市 斉内川

■ 斉内川の概要

- 大仙市中仙地域の中心部を流れ、雄物川支川の玉川に流入する一級河川。
- 流域面積： 84 km²
- 流路延長： 22 km
- 計画流量： 650m³/s
- 玉川合流点から約700m上流にある「道の駅なかせん」沿いの水辺は親水整備されている。



出典) 秋田県ホームページ「① 斉内川の現状」

4. 県職員対象研修会 in 秋田県大仙市・斉内川

■ 研修プログラム

(1) 小さな自然再生研修会 2018年2月

「道の駅と直結した水辺の小さな自然再生と地域の賑わい創出」をテーマに、午前の座学及び午後のワークショップを通じて単調な流れの水辺のエコアップの方策を議論。

<プログラム>

- 小さな自然再生のすすめ「河川生態系のしくみ」
- 事例紹介「小さな自然再生と多自然川づくり」
- 事例紹介「できることからはじめよう水辺の小さな自然再生」
- 地元の取組みと現地の状況説明
- ワークショップ「道の駅と直結した水辺の小さな自然再生と地域の賑わい創出」



4. 県職員対象研修会 in 秋田県大仙市・斉内川

■ 研修プログラム

(2) 多自然川づくり研修会 2018年10月

斉内川沿いの道の駅に隣接した水辺のエコアップと賑わい創出を目的に、前年度のワークショップ成果に基づき、県職員や地元業者で手づくりのバープ工を設置した。

<プログラム>

- 座学研修①現場紹介
- 座学研修②河川生態について
- 座学研修③多自然川づくりについて
- 座学研修④河道計画について
- 施工演習・・・斉内川に20mのバープ工を2基設置



4. 県職員対象研修会 in 秋田県大仙市・斉内川

■ 研修プログラム

(3) 多自然川づくりiRIC研修会 2019年5月

前年に設置した2基のバース工の水理的影響を評価する手法を習得することを目的に、iRICでのシミュレーション方法を学んだ。

<プログラム>

- バース工、iRIC概要紹介
- 蛇行水路・実河川の流れと河床変動解析
- 断面データ加工
- 斉内川バースを対象としたシミュレーション



4. 県職員対象研修会 in 秋田県大仙市・斉内川

■ 研修プログラム

(4) 小さな自然再生研修会 2020年11月

「多自然をモニタリングする」をテーマに、2年前に設置したバース工の河道内地形変化や生物生息状況の評価方法を学んだ。

<プログラム>

- 座学研修①バース工設置の経緯説明
- 座学研修②生物モニタリングと生息地評価
- 座学研修③河川の地形と物理環境のモニタリング・評価
- 現地実習～生物及び河道内地形の簡易調査等



4. 県職員対象研修会 in 秋田県大仙市・斉内川

■ 経過観察記録 (2018年10月撮影・設置直後)



(撮影) 秋田県建設部河川砂防課

4. 県職員対象研修会 in 秋田県大仙市・斉内川

■ 経過観察記録 (2021年4月撮影・設置後2年半)



(撮影) 秋田県建設部河川砂防課

4. 県職員対象研修会 in 秋田県大仙市・斉内川

■ 経過観察記録 (2024年8月撮影・設置後約6年)



(撮影) 共和コンクリート工業株式会社 秋田支店

4. 県職員対象研修会 in 秋田県大仙市・斉内川

■ 経過観察記録



2018年10月



2021年4月



2024年8月

👉 本研修会の概要は RIVERFRONT vol.93 (2021年9月発行) でもご覧頂けます。

発表の内容

1. 発表の背景

流域治水自分事化検討会 河川整備あり方検討会

2. 小さな自然再生とは?

定義と特徴 普及の取組 役割

3. 国職員対象研修会 in 京都府宮津市・大手川

開催経緯 研修プログラム 振り返り

4. 県職員対象研修会 in 秋田県大仙市・斉内川

開催経緯 研修プログラム 経過観察

5. 発表のまとめとお知らせ

発表のまとめ

はじめての魚の居場所づくり vol.2 「小さな自然再生」現地研修会

5. 発表のまとめ ～小さな自然再生の大きな可能性～

■ 小さな自然再生の大きな可能性

<河川技術の向上>

●河川……

川の営みを身近なスケールで学ぶ訓練の場、失敗が許される見試しの機会。

👉 河川環境の場づくりの技術向上への貢献

●流域……

多様な主体との協働のノウハウを学ぶ機会。

👉 by ALLの流域治水への貢献



<今年度実施中>

一般財団法人旭酒造記念財団研究助成

『水辺の小さな自然再生の社会実装に向けた事例研究』

5. お知らせ ～「はじめての魚の居場所づくり vol.2」 本日完成～



はじめての魚の居場所づくり vol.2
 (制作) 2024年8月
 滋賀県立大学大学院 泉野珠穂・安田希亜良・滝健太郎
 日本河川・流域再生ネットワーク
 (発行) 滋賀県流域政策局
 滋賀県立大学大学院 流域政策・計画学研究室(編研)
 公益財団法人リバーフロント研究所

河川基金
 公益財団法人河川財団
 による河川基金の助成
 を受けています。

目次
 1. 魚にとって大切な場所
 2. 魚の居場所づくり

16ページ (vol.1) から24ページ (vol.2) に増強して発行

5. お知らせ ～今年度開催「小さな自然再生」現地研修会～

第25回 滋賀県長浜市・大浦川
「小さな自然再生」現地研修会
 ～ピワマス魚道を設置して地域を盛り上げよう！
 稲刈り体験+ゲリラ炊飯もあるよ！～

開催日 令和6年11月2日(土) 10:00～17:00
会場 滋賀県長浜市西浅井町庄929 <座学：庄農業者トレーニングセンター / 現地：大浦川>
対象 小さな自然再生に関心のある方々 ※参加申込方法、会場へのアクセス、問合せは裏面をご覧ください。
定員 50名(先着順)
参加費 1,500円 (昼食代として：(ONE SLASH)のゲリラ炊飯) ※参加費は当日支払い
持ち物 川の中で濡らない靴(雨靴、水陸両用靴、靴カバー等)、作業用手袋
プログラム ※プログラム及び募集サイトは一部変更の可能性もあります。 ※主催者側で行事保険に加入いたします。

(10:00～11:30) 琵琶湖湖北地区のネイチャーボジティブに向けた取組を学ぶ 座学研修 @トレーニングセンター
 - 開会挨拶
 - RICE IS COMEDY 人口4000人のまちで仕掛ける「地域の生き残り戦略」(清水 広行：ONE SLASH)
 - 滋賀県で広がる市民発足のピワマス魚道 (佐藤 祐一：滋賀県琵琶湖環境科学センター)
 - 午後の大浦川での仮設魚道設置作業について (和田 彰：公益財団法人リバーフロント研究所)

(11:30～12:30) 稲刈り体験：(ONE SLASH)のちよと変わった稲の収穫

(12:30～13:30) 昼食：(ONE SLASH)のゲリラ炊飯

(13:30～17:00) 小さな自然再生の実践～ラバー堰に手づくり魚道を設置する @大浦川
 - ピワマス選上の観察 及び 昨年パーエ工設置現場の視察 ■現地案内：清水広行(同上)・佐藤祐一(同上)
 - 落差1.2mの取水堰に手づくり魚道設置
 ■現地技術指導：岩瀬晴夫(株式会社北海道技術コンサルタント)・田原大輔(福井県立大学)・佐藤祐一(同上)

(17:00) 閉会

第26回 兵庫県上郡町・千種川
「小さな自然再生」現地研修会
 ～小さな自然再生でかつての千種川を取り戻そう～

開催日 令和6年11月3日(日) 10:00～16:00
会場 兵庫県赤穂郡上郡町苅橋67 <座学：上郡町立赤松地区公民館 / 現地：千種川>
対象 小さな自然再生に関心のある方々 ※参加申込方法、会場へのアクセス、問合せは裏面をご覧ください。
定員 50名程度(先着順)
参加費 無料
持ち物 雨長靴(ウェーダー)、防寒着、作業用手袋、昼食(弁当を事前注文可能 ※裏面参照)
プログラム ※プログラム及び募集サイトは一部変更の可能性もあります。 ※主催者側で行事保険に加入いたします。

(10:00～11:30) 二次流路を生物の生息・生育・繁殖の場とするための座学研修 @上郡町立赤松地区公民館
 - 開会挨拶
 - 千種川に関する取り組み (横山 正：千種川圏域清流づくり委員会 ネットワーク部会長)
 - 小さな自然再生のすめ～千種川でできることはたくさんある～(三橋 弘宗：兵庫県立人と自然の博物館)
 - この現場でできる小さな自然再生のアイデア交換 及び 午後の実践活動について (和田 彰：リバーフロント研究所)

(11:30～12:30) 昼食 ※駅や会場近くコンビニ等はありません。各自持参or(裏面の)弁当注文をお願いします。

(12:30～16:00) 小さな自然再生の実践～二次流路でエコアップを見試しよう @千種川
 - 二次流路への水量増加、水路掘削、湧水スポット保全、多様な流れの創出、魚の隠れ家づくり、モリスガニ捕獲見学 等々
 ■現地技術指導：三橋 弘宗(同上)・岩瀬 晴夫(株式会社北海道技術コンサルタント)

(17:00) 閉会

河川基金 公益財団法人河川財団による河川基金の助成を受けています。

主催：千種川圏域清流づくり委員会、「小さな自然再生」研究会、日本河川・流域再生ネットワーク
 協力：兵庫県西播磨県民局光都土木事務所、上郡町、千種川漁業協同組合
 公益財団法人リバーフロント研究所

ありがとうございました

多自然川づくり
サポート

<担当：内藤太輔>

かわまちづくり
サポート

<担当：阿部充>

リバフロサポートセンター

河川環境管理シート
サポート

<担当：白尾豪宏>

小さな自然再生
サポート

<担当：和田彰>

リバフロサポートセンターの相談窓口へお気軽にお問合せください